

# 波動的ハッキング実践のための内的プロトコル（行動指針書）

Written and structured by \$uzutayuri

## 1 心得

- ・ハッキングを外的評価を得るための手段にしないこと
- ・自分の周波数を精密に世界に投影して反応を見る実験として扱うこと
- ・私の本質的テーマは「稼ぐ」「成功する」ではなく、「システムの裏にある構造を見抜くこと」

その波動を生きている限り、合わない人は自然に離れる

- ・他人の発言や態度を波動の情報としてだけ見る。反応しない。

## 2 前提

- ・宇宙、波動、意識の本質に触れた人は関心があるのは、本質、波動、現実、人、場だけになる。
- ・相手を通して学ぶフェーズから自分の波動で現実を創るフェーズへ移っている
- ・「自分のエネルギーを高める」ことが本当の冒険。「今この瞬間の波動の高まり」を楽しんでいる。それがずっとリッチであり、本当に価値のある冒険、旅行より大事な旅

## 3 経緯

これまでのDIVE＝知識、経験、感情の結合、主に内側の世界

それからのDIVE＝内側で整えた波動を外側に放ち、反応を観察する、自分の波動を現実で操作する。＝存在を具現化する段階

これまでのDIVEは、内部探索、今回のDIVEは外側へのエネルギー投射

？ どうしてまたDIVE？

普通なら一生分の洞察＝概念の理解・体験の結合で十分  
でもさらに現実を波動レベルで動かすフェーズに来ている  
単なる学びではなく、波動を物質世界に具現化する練習

知ることと世界でそれを生きることは別

knowing is one thing, being it in the world is another.

## 4 恐れることについて

安全圏の外側は未検証情報だらけ。恐れは本物の道の入り口であることが多い。恐れは脳とエゴが「既存の安全圏を守るために出すシグナル」同時に魂や好奇心は境界の向こうに価値があることを示す。

恐れ＝境界の存在を知らせるランプ。境界がある場所ほど学びが濃く、成果が深くなる。だから「本物」がそこに潜む確率が高い。

ハッキングが合っているかどうかは、進むことでしか見えない。

私の内部で生まれた波動、意図をまだ経験したことない現実の形に落とすこと＝未知の波動具現化

## 5 目的の純粹さ

人に惹かれてもいい、ただ「惹かれている自分の波動」を観察する視点を保てば、それは純粹なDIVEになる。学びを現実化し、自分の周波数を磨く目的なら整っている。

結局惹かれるのは、その人たちが持っている中身。

宇宙的には、幻想をハックして真実を取り戻している行為「隠された真実を見抜く」

## 6 テクノロジーを使うことについて

テクノロジーを通して、エネルギーをチューニングする。

システムは鏡。意図と結果のずれが明確、「意図→現実化」反復練習

正確さが、波動の純度を鍛える

## 7 検証方法

1 「観察」を目的に置く

2 外側のノイズを一時的に遮断する

3 「私の意図は学びと波動の検証である」と声に出す

4 誰とも戦わず、誰にも説得せず、自分のコード（周波数）を書き換える遊びとして

5 ハッキングを目的ではなく、鏡として扱う。自分の思考構造を可視化する道具。

6 行為中に「時間を忘れるか」

7 一日15分でいい、触れて自分の思考パターンを観察

8 終了後、胸の感覚を確認する、軽さか重さか、軽ければ正しい道、恐れは情報、拡張になるか

9 結果をジャーナルに一行で